

諫早市教育委員会議事録

令和 6 年第 1 2 回（1 1 月定例）

令和6年第12回（11月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和6年11月20日（水）
16時00分～16時30分
- 2 場 所 諫早市役所 7階 会議室7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
- 4 欠席者 委 員 小野 靖彦
- 5 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 新野 純子
学校改革推進室長 池 政信
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
少年センター所長 乾 亜希
- 6 議 題 教育長の報告

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和6年第11回（10月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

4項目について報告する。まず、「大事な家庭教育」についてであるが、これは校長や副校長・教頭といった管理職が参加する研修会の折に特に強調して話をしたもので、家庭教育をもう一度見直す必要があると考えている。「早寝・早起・朝ご飯」といった規則正しい生活習慣は何よりも大事である。科学的な観点からも脳の発達を促し、心身ともに健康な体をつくるうえで重要であり、学習効果も向上するという実証結果が出ている。

資料の「3点固定」というのは、家庭で学習を開始する時間や就寝時間、起床時間を毎日同じ時間帯に設定するというものである。それにより生活リズムや体のリズムが整い、非常に良い影響をもたらすと言われている。私が高等学校に勤務していた際も、このことを繰り返し言ってきた。例えば、あるときは夜遅くまで起きていて、別の日は早く寝て朝早く活動するような不規則な生活をする、体には非常に大きな負担がかかる。だから、できるだけ同じリズムで生活が続けることが重要である。

また、先般から話しているように、十分な睡眠時間の確保とバランスの良い朝食が大切である。昼食については、学校給食として栄養バランスが整った食事が提供されているので、朝食をしっかり摂

ることで、一日の活動がより活発になると言われている。そのためにもやはり家庭教育が必要だと思う。

次に、「躾教育は家庭で」ということで、当たり前のことだが挨拶や歯磨き、自分で起きる、寝る、着替える、登校の支度をする、部屋の整理整頓をするなどは、毎日の家庭教育で身に付けさせなければならない。それが躾教育である。このことを連絡帳や学校からの安心安全メール、学級通信、学級懇談会などを通じて保護者に伝えることが重要である。どうかすると、今言ったようなことを学校でやってほしいという保護者もいると聞く。しかし、これらは子供たちが自分でする最低限のこととして、家庭において徹底していただきたい。

さらに、家庭学習とお手伝いは必須であり、学校で習ったことを家で復習することは、学力向上において極めて大事である。これを市全体で取り組むべきことだと考えている。学校で先生から教わるが、その場では理解できたように感じる。しかし、自宅で1人で同じ問題や練習問題を解いてみると、学校で先生が簡単に解くことができるような説明をしていた部分でも引っかかることがある。私はそれこそが勉強だと思う。自分が本当に理解できていなかったことに気づくことが重要であり、それを翌日に先生に質問すると、学習効果が大きく向上すると考える。

そして、お手伝いについては、子供からするとお手伝いや家庭内での役割というのは、いかにも「してあげている」という感じなのかもしれない。しかし、家族の一員であるならば、お手伝いというよりも当然すべきことであると思う。欧米では「自分のことは自分でする」という考えが浸透しているし、家族の役割も決まっていてそれを毎日することは当たり前とされている。そういうことをすることによって、家族の絆や責任感が身に付いていくと思う。さまざまな機会に発信していきたい。

2 番目。11月11日から13日に、委員の皆様も一緒であったが、教育委員会の行政視察を行った。初めに視察したのは岐阜市教育委員会で、「その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育」、「不登校の子供の居場所作りと学びの支援」について、岐阜市の教育長自ら説明をしていただいた。

次に、岐阜市立草潤中学校「学びの多様化学校」を訪問した。不登校の生徒をありのままに受け入れる学校になる。皆さんも実感されたと思うが、「選択と行動を重視した学校運営」をしている。つまり、子供たちが決められたことをするのではなく、今日何をするのかを自分で決める。さまざまなプログラムがある中から自分が選

択をしていくことになる。「何もしない」ということもそれを選択していることになり、学びの多様化学校というものを非常に勉強することができた。

そして次の日は、吹田市教育センターを視察した。吹田市総合防災センターという下の方の階が消防署になっている一体型の複合施設で、8～10階に教育委員会が入っている。その総合防災センター内に新しい教育支援教室が設けられており、多様な学びを支援する場として展開されていた。ここでも吹田市の教育長が熱心に語られたことが特に印象に残った。

13日は尼崎市の生涯、学習！推進課を訪問し、「みんなの尼崎大学、学びから！（ビックリマーク）が見つかる」について話をお聞きした。夏休み期間の2日間、「サマセミ（サマーセミナー）」と呼ばれるさまざまな学びを体験するイベントが行われている。尼崎市では住民自治に熱心に取り組まれており、住民はお客さんではなく市民の一員として主体的に働きかけるという趣旨の特徴ある取り組みであると感じた。

最後に、同じく尼崎市の「学びと育ちの研究所」について概要をお聞きした。「データとエビデンスで子供たちを支える取り組み」をされており、大学教授と研究所が連携して研究を深めている。ともすると教育は経験や大まかな全体像に頼りがちになる。しかし、データ化された情報を分析し、エビデンスを基に取り組むことは非常に重要なことだと思う。それが全てではないが、勘や経験に頼るのではなく、データがあるならばそれを分析して取り組むことも必要であるということである。ただし、匿名性のある不特定多数のデータが一定量ないと役割を果たさないと思うので、大きな街でなければ難しいのではないかと感じた。

3番目。「いじめの認知件数が全国で過去最多」について。文科省が令和5年度の問題行動・不登校調査結果を公表したが、全国の公立学校のいじめ認知件数が、前年度比約1.1倍の73万2,568件。県内は2,003件で350件の増であった。そして、いじめにより児童生徒の生命や心身、財産に重大な被害が生じたり、長期欠席を余儀なくされたりする重大事態の件数は、全国で1.4倍の1,306件で過去最高となっている。県内は国公立で4件。これは前年から3件の減である。諫早市においては、いじめ件数は小学校31件、中学校23件の54件で、対前年比8件の減となっている。重大事態は0件になる。従って、諫早市は全国や県と比べても児童生徒、学校側の懸命な努力によって小康状態を保っている。学校側の努力に感謝したいと思う。ただし、いじめは油断してはい

けない。どの学校でも、どの子供たちにも起こり得るものである。いじめは人間として絶対許されない卑劣な行為であるため、アンテナを高くして、引き続き早期発見・早期解決に努めていきたいと思う。

また、いじめは携帯電話等を使って巧妙化、潜在化、集団化している傾向がある。つまり、携帯電話を使ってのいじめだと学校や教師が発見することが非常に難しくなるので、油断することなくいじめ解消、いじめゼロを目指して努力しなければいけない。学校の管理職の会でもお願いしているところである。

11月の行事について。研究発表会が6日に北諫早中で行われた。それから、県の中学駅伝が7日に各市町2校ずつ、16地区の32校が参加し、トランス・コスモススタジアムの周回コースで行われた。女子の優勝は西彼陸友会で、これは部活動の地域移行の象徴みたいなものになる。対馬の鶏知中学校をスタジアムに入ってから逆転しての優勝であった。明峰中は5位、高来中は8位であった。

男子の優勝は対馬の鶏知中。喜々津中は6位。高来中は10位の結果であった。高来中は男女で出場しており頑張っていた。選手宣誓は高来中の鶴田くんが行った。

それから、湯江小の創立150周年記念式典が17日に行われた。市長とともに参加したが、非常に素晴らしい子供たちの姿を見ることができた。子供たちはとても元気があり、学校全体でしっかりと挨拶をしている。良い学校だなと感じるとともに元気をもらうことができた。また、地元の方々も多く参加され、浮立の披露や金管バンドの子供たちの演奏が行われた。

そして、月曜から昨日火曜まで県都市教育長協議会が島原市で開催された。13の都市教育長が集まり、学校統廃合の問題について協議を行った。統廃合がほとんど関係ないのは大村市ぐらいで、あとのすべての市が統廃合を進めており、諫早でも小長井地区を進めているところである。

22日金曜日は教育委員会の表彰式を開催する。さまざまな分野で貢献いただいた方々及び諫早市で長年働いておられる教員を表彰させていただく。また、喜々津東小学校の研究発表会が22日に、PTAのレクリエーション大会が23日の土曜日に行われる。レクリエーション大会は去年から始まったが非常に賑わう大会である。会場は中央体育館で、私も参加して「PTAと一体となった教育を進めていきます」ということで挨拶しようと思う。全国的に見てみるとPTAが成り立たないとか、必要ないという不要論とかあるけれども、私は大事な組織だと思っている。だから、お互いに信頼し

合って連携していかなければならない。

飯盛東小の研究発表会は２９日算数科である。１２月の議会は２９日から始まり、一般質問は１２月４日からとなっている。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

「大事な家庭教育」の関係で、今、子ども食堂が大きく取り上げられ、諫早でもかなりの率で子ども食堂を利用されている。家庭環境があまりよくない方たちも結構いるようだが、意外にそういう方は学級懇談会に参加しないし、学校や教師からの話も伝わりにくく、どうしても負の連鎖があっているような感じがする。やはり、貧困問題というのにも出てきているので、そこに対する教育委員会と福祉の連携は、どういう形で行われているのか。

[学校教育課長]

定期的にこども福祉部と話をしており、課題を抱える事案について共通理解するようにしている。

[委員]

コロナ禍以降はどうしても家庭訪問がなかなかできなかったため家庭状況が見えにくくなっていたと思うが、コロナ禍が明けてからは情報も入りやすくなっていると思うので、是非確認をお願いしたい。

[教育長]

学校側、もしくは教育委員会からどれだけ家庭に伝えられるかというのも大事なところだと思う。メディア教育などもそうで、講演会などをされているので本当は学校に来てもらいたい、いろいろ事情がある家庭はなかなか来てもらえない。しかし、これは粘り強くするしかない。

[委員]

家庭教育のところの躰教育についてであるが、教育長が話をされた中で、「メディア機器の時間と内容の管理」というのも入れていると思う。やはり、未就学児の段階で長時間利用している子供たちも多いし、また、大人が見て驚くような内容のものをしている子供たちも多い。そうなることで家庭学習の時間を確保することが小学校に入ってから難しくなったり、教育長がよく言われている睡眠時間の確保も難しくなったりしてくると思うので、是非お願いしたい。

それと、先ほど話があった、「本当に声を届けたいところになかなか届けられない」というところで、諫早市の小学校の中には入学

説明会の時にファミリープログラムというのを入れている。入学説明会にはほとんどの家庭が参加するので、そこで保護者同士を繋ぐということを取り組みとしてされている。是非、諫早市全部の学校でその取り組みをしていただき、まずは保護者が気軽に話せる保護者を作るというところから始めてもいいのかなと思う。

[教育長]

私も校長をしていたが、入学式の時が大事で、やはり入学式の時にはほとんどの保護者が来られる。学級懇談などにはなかなか参加できない人も、入学式には祖父母も含めて誰か1人は参加されると思うので、その機会を逃さずにすることが重要である。それから、保護者が孤立しないということも大事なことだと思うので、そのためにも学校とPTAのいろいろな連携が必要である。

[委員]

家庭教育は本当に一番大事であると思う。そして、「躰教育は家庭で」についても、私の保育園では面接の時に伝えている。しかし、保護者もいろいろな方がおられる。先日、市との連携ということで子育て支援課に保育園へ来てもらい、少し気になるような子供や保護者の事情を子育て支援課に説明し、関係機関や保健師に繋げてもらった。子ども・子育て支援制度と言われて久しいが、子供に関わるだけでなく保育園やこども園と行政が一体となって気になる家庭は関係機関に繋げたり、教育委員会も学校と連携してPTAも利用して孤立をさせないようなるべく子供に目が向くような手立てをみんなで考えたりして、これからも子供も保護者も取り残さないように一段と力を入れてもらいたい。

[学校教育課長]

少年センターには県から1名と市から2名の計3名のスクールソーシャルワーカーを配置している。そのスクールソーシャルワーカーに家庭と関係機関を繋いでいただき、1つでも解決に導くようにしていきたいと思う。

[委員]

学校の先生が子供の後ろに見える家庭環境に気付かないとなかなか繋げていくことも難しい。

[教育長]

スクールソーシャルワーカーについては、今年度から諫早市は2名採用している。教員が入り込めない領域があるので、そこをスクールソーシャルワーカーに入ってもらい、関係機関へと繋いでいただきたい。

その他

教育総務課長

1 2 月定例教育委員会の日程について説明

1 6 時 3 0 分閉会